

## 平成30年度第3回柏崎市総合計画審議会議事概要

- 1 日時 平成30年10月5日（金） 午後3時から午後5時まで
- 2 場所 柏崎市役所 第二分館2階 第6会議室
- 3 出席者
  - (1) 委員 小林会長、根本副会長、青木委員、工藤委員、西川委員、三嶋委員、村田委員、山田委員
  - (2) 庁内 総合企画部長、財務部長、市民生活部長、危機管理監、福祉保健部長、子ども未来部長、産業振興部長、都市整備部長、上下水道局長、消防長、教育部長、議会事務局長、会計管理者
  - (3) 事務局 企画政策課長、課長代理、企画班係長

### 4 会議概要

- (1) 開会 総合企画部長から開会挨拶
- (2) 会長挨拶 小林会長から挨拶
- (3) 議事

柏崎市第五次総合計画進行報告書（案）に関する質疑、応答  
委員により以下のとおり審議が行われた。

発言者	発言概要
	【第4章 教育・スポーツ 第3節 スポーツを通じた『たくましさ』をはぐくむ】
委員	施策の目標指標には、体育施設利用者数などの目標値が設定されているが、目標値の根拠は何か。
教育部長	体育施設の利用者数は減っていない。健康づくりにおいて運動の重要性を認識しており、競技スポーツ、青少年スポーツといったスポーツ振興のみならず、健康づくりとしての視点も考慮して、目標値を一定程度高く設定している。
委員	目標値を決める際に、例えば、体育施設利用者数は健康増進のためであるとするれば、全市の児童数、社会人のうち何%利用することで、病気の予防が期待できる等の根拠があつて良いと思う。体育施設利用者数のみならず、他の目標指標も同様に根拠があつた方が、具体的な施策の手法も見えてくると思う。今後、指標設定に当たっては、理由、根拠の在り方を重視してほしい。
委員	以前、市がスーパーワイドランを活用した健康管理の仕組みづくりに取り組んだ際の機器が、ワークプラザに現在も設置されている。機器は老朽化しているものの、今でも血圧を測るなど活用されており、健康管理に気を付けている市民が多い。買い替えも検討しているが、高価でありワークプラザだけでは難しい。公共施設に健康機器が設置されれば、活用する市民は多いと思うが、市の考えはどうか。
教育部長	スポーツ施設に関しては、例えば、総合体育館では年齢に合わせた無理のない運動を提供することで、健康づくりや競技力向上のために対応している。
委員	スポーツ推進委員は何人いて、どのような活動をしているのか。
教育部長	協議会を組織しており、市内各地域の体育協会や町内会から推薦された72人から登録いただいている。スポーツ推進委員の役割は非常に大きく、元朝体操の指導に始まり、春、夏、秋の各種スポーツ大会運営のほか、各種研修会へも参加していただいている。例会として月1回集まっただき、連絡調整、役割分担の確認などを行っており、活躍していただいている。
委員	スポーツ推進委員は、地区体協ごとに選出しているということか。
教育部長	委員は、地区体協から選出いただくことが多いが、地区体協がない地域もあり、

- その場合、地区や町内会といった地域団体から推薦いただいている。
- 委員 少子化により、団体競技では中学校単位でチームが組めない学校もある。このため、強くなりたい、上位大会を目指したいと思う子どもは、社会体育に頼ることになるが、中学校に専門指導者を派遣する取組はどのようなものか。
- 教育部長 平成29年度は、11校に19人を派遣した。卓球、バスケットボール、野球、ソフトテニス、バレーボール、剣道などのスポーツ種目に派遣している。中学校単位で不足している種目の指導者を補うために、保護者や近所にお住まいの方を指導者として推薦いただき、市が派遣している。指導時間等は、指導者と学校の間で相談していただいている。この形態が、今後増えていくことが予想される。部活動によっては、専門ではない教員が顧問となっている事例もあり、地域で専門的知識のお持ちの方から部活動を応援していただきたいと考えている。
- 【第5章 魅力・文化 第1章 『柏崎らしい』個性をはぐくむ】
- 委員 目標指標である柏崎駅周辺の整備に対する市民の満足度には、現状の数値が掲載されていないが、データがなかったのか。また、中心市街地では、新庁舎の移転という明るい材料もあるが、イトーヨーカドー丸大の撤退もあり、良い面と悪い面が交錯している中、次なる施策が必要ではないかと考えている。今後の中心市街地活性化に向けて、ビジョンがあれば聞かせていただきたい。
- 企画政策課長 柏崎駅周辺の整備に対する市民の満足度の指標は、市民満足度調査に基づくものであるが、毎年調査をしているものではない。前回調査が平成26年度であり、次回は平成32年度辺りを予定している。
- 委員 当初の数値から8%以上高い目標値としており、可能であれば、継続的に調査した方が効率的であると思う。
- 都市整備部長 新庁舎整備に関連して、空き地となっている5街区については、内容が決まっておらず、検討中である。また、イトーヨーカドー丸大の撤退による中心市街地の買い物難民対策として、現在、復興市営住宅前に移動販売の5業者から来ていただくことで対応している。
- 委員 買い物難民対策は、永遠の課題である。他の地方都市でも苦しんでいることは承知しているが、是非、有効な対策をしていただきたい。
- 委員 市役所移転などに伴い、高齢化もあり、鉄道などの公共交通網が見直しされるのではないかと考えている。駅前再開発は、チャンスと思われるので、相応の計画ができれば良い。
- 委員 目標指標に若者の定住率とあるが、若者の定義は何か。
- 企画政策課長 若者の定義は、24歳から35歳としている。若者の定住率は、24歳から35歳の人口を20年前の5歳から14歳の人口で割ることで算出している。
- 委員 現在、駅前に植木組本社が建設中であり、テナントが入る建物も建つとの話を聞いたことがある。テナント等について、植木組が主導的に決めるものなのか、あるいは中心市街地の活性化として市も関与するのか。
- 総合企画部長 基本的には、植木組が主導的にビジネスとして成り立つものを決めている。オフィス街がコンセプトとなっており、テナントには、第三セクターのカシックスが入ることがほぼ決まっている。第5街区やその他の駅前周辺は、市場原理で開発が進むことを願っている。
- 委員 柏崎地域国際化協会の会員登録数等が課題に挙げられている。また、市内在住の外国人が住みやすくすること等も挙げられているが、柏崎市民の国際化も必要だと思う。以前あった子ども達のスタディツアーは継続されているのか。ま

- た、民間人の国際化について考えや取組があれば聞かせてほしい。
- 産業振興部長 スタディツアーは、国際化協会が市からの支援により基金を造り、その運用益により実施していたが、現在は低金利により運用益が出ず、実施できていない。また、昨年度設立されたインバウンド推進協議会で、外国人に対する指さし会話帳の作成や飲食店に対し外国人向けメニューの勉強会を実施した。市内で日本人も外国人も差別なく、自然に対応できるおもてなしの心を醸成するセミナーも開催している。
- 委員 例えば経済人の国際化といった取組があっても良いのではないかと思う。そういう取組はないか。
- 産業振興部長 国際交流の推進として、姉妹都市である中国の峨眉山市、淮安市と中学生の相互訪問事業を行っている。過去には、経済交流として民間の方が海外へ行く際に市職員が同行したこともあったと伺っている。市が積極的に市民を派遣することは今まで実施しておらず、今後についても、財政状況を総合的に考えると、そこまで至らない状況だと思われる。
- 委員 確かに民間のことであるが、大事なことなので、視点としてはあっても良いと思う。
- 委員 最近、シルバー人材センターに初めて外国人の入会があった。また、お客様にも外国人の方がいるが、会話が成り立たないことがある。これからは、人材不足の企業などでは外国人材の活用が進むと思われ、公的に対応できる通訳の人がいれば良い。これらに対する情報は持っているか。
- 産業振興部長 通訳の設置が必要となれば、市でも検討しなければならないが、国際化協会において通訳可能な会員を派遣していただけると思われるので、まずは国際化協会にご相談いただきたい。
- 委員 産業大学には海外から来ている学生もいる。その方々に柏崎ファンクラブに加入していただき、里帰りの際に、柏崎の情報を広めてもらうことはどうか。そうすれば、あまり経費をかけずに海外へのPRにつながると思うがいかがか。
- 総合企画部長 大変興味深く有意義なご意見を賜った。早速、担当に伝え、可能かどうかも踏まえ検討していきたい。
- 委員 日中国交正常化から40年が経過した中、淮安市との交流が続いている。今後とも継続するとしているが、どのような交流を計画しているか。
- 産業振興部長 中国の峨眉山市と淮安市と交流しているが、淮安市から訪問いただき、その翌年には柏崎市が訪問することで2年、峨眉山市との交流が同様に2年となり、4年が1サイクルである。中学生が相互に訪問して、それぞれの文化を学ぶこととしており、今後も継続していくが、取組を工夫していくことも検討する必要がある。

【第5章 魅力・文化 第2章 大学を活かし『柏崎らしさ』をはぐくむ】

- 委員 施策の目標指標に、2大学への進学者数に対する市内出身者の割合があるが、当初は20.8%だったものが、現状では10.2%と下がっているものの、目標値は30%と高い設定になっている。この目標値の設定根拠はあるか。また、ビジョンがあるのであれば教えていただきたい。
- 企画政策課長 ご指摘のとおり、計画策定時に、かなり高い目標を掲げたという思いはあった。ただし、30年度の数値は13.4%と盛り返している。今後については、工科大学では給付型奨学金制度を設け、その中で柏崎枠も作り市内入学者数を増やしていきたい。また、産業大学では、元市内高校の校長から就職アドバイザーに就任いただき、市内・県内の高校を訪問し、入学者数を増やすため取組

- 委員 喜んでいただいております、目標値の30%に向けて頑張っていきたい。
- 委員 先日、産業大学の業務提携が発表されたが、舵取りや方針が変わるような情報があれば教えてほしい。
- 総合企画部長 業務提携先が、通信制の高校を運営しており、通信制大学に興味やノウハウをお持ちであると承知している。現時点で、産業大学の教育方針が大きく変わることはないのではないかと考えている。ただし、今後、18歳人口が大幅に減少することはご承知のとおりであり、また、高等教育に対する国の方針は変わっていくと思われる。こうした中、2大学から選ばれる大学として何をすべきか考えていただくことは、待ったなしの状況である。これまでの「柏崎学」のレベルでの変革では、おそらく選ばれない大学となる可能性がある。もう少し斬新かつ現実的で、地元の民間企業の皆様にも大きく貢献できるようなカリキュラム改変をし続けなければ、淘汰されてしまう懸念はつきまとっている。
- 委員 補助金による学生募集の取組の効果により、平成30年度の2大学入学者数が13人増加したとある。入学者数が増えることは良いことなので、今後も頑張ってください。ただし、入学した後、学生が市外に出てしまうと、還流しない。地元へ就職することを主眼に置いたプログラムはあるか。
- 総合企画部長 先般、工科大学で、新たな給付型奨学金制度が設立され、その中に柏崎枠を設けていただくために寄附をさせていただいた。この柏崎枠は、地元出身者で、卒業された後も柏崎市内に就職を目指している方々に対する奨学金であり、有効に活用していただきたいと考えている。入学者数が増えることはもちろんのこと、地元に着し、仕事に従事していただくことが重要であり、金銭的部分だけでなく、話し合いをしながら、引き続き2大学にお願いしていきたいと考えている。
- 委員 とても良い取組であり、頑張ってください。
- 【第5章 魅力・文化 第3節 歴史や文化の息づく『柏崎らしさ』をつくる】
- 委員 市内には歴史文化財がたくさんある。また、それらを紹介するガイドマップがあるが、認知されておらず広まっていないと思われる。非常に良いことが書かれており、とてもためになるのに活用されないのはもったいない。活用するためのアクションや考えがあれば教えてほしい。
- 教育部長 市内文化財を収録している資料は各種存在する。このうち、紙ベースのものについては、市内文化財の資料に関して、新しいものが作れていないが、観光パンフレットやまち歩きマップの中で文化財を紹介させていただいている。WEBミュージアムに2年前から取り組んでおり、文化財、芸能、産業、まつり、遺跡等を掲載しており、予算の範囲内で更新をさせていただいている。紙ベースのものは、市民の目に触れる機会を増やしていきたい。また、WEBミュージアムは、スマートフォンやパソコンによりどこでも気軽に見れるシステムであり、普及や活用をしていきたい。
- 委員 コレクションビレッジ3館は、どういう位置付けなのか。
- 産業振興部長 コレクションビレッジ3館は、市制施行50周年を記念し、市内コレクターに声をかけ、このうち3者に同意をいただき、西部地区を観光のメッカにすることを目指し、現在の場所に建てられた。この3館は、博物館要素もあるが、観光施設としての要素も合わせ持った施設である。開館当初は、3館合わせて5～6万人の来場者数があったが、現状では来場者数はそれぞれ千人前後であり、非常に厳しい状況である。数年前から小学生を中心に学校から見学していただくこともしているが、厳しい状況に変わりない。風の丘米山一帯を再整備

	<p>するため、今年度調査しており、今後、新しい道の駅が整備され、その波及効果があれば良いと考えている。ただし、風の丘の整備自体も検討中であり、未定となっている。</p>
委員	<p>コレビレ3館をもっと活用してほしい。</p>
委員	<p>アルフォーレの利用者数が、28年度に比べ29年度は3万人程度減ったが、原因は何か。</p>
教育部長	<p>指定管理者の主催事業に大きな変わりはなく、新たな事業にも取り組んでおり、具体的な原因は分からない。今年度においては、昨年並みに推移していると指定管理者から報告を受けている。冬場の天候等に影響を受ける場合もあり、今後の推移を見たい。</p>
産業振興部長	<p>平成28年度は、産業文化会館が6月から耐震補強工事のため閉館し、利用者がアルフォーレに流れ、利用者数が多くなったとの報告を受けている。アルフォーレは、平成27年度まで順調に利用者数が増えている。平成29年度に産業文化会館がリニューアルして平成28年度よりは減少しているが、17万人前後がアルフォーレの通常の利用者数であると認識している。</p>
委員	<p>アルフォーレの音響施設は、非常に良いことを最近知った。世界的なピアニストであるツイメルマンが、アルフォーレで収録したCDを25年ぶりに発売した。ツイメルマンは、アルフォーレは世界で3本の指に入るホールと絶賛し、来年2月にも公演予定とのことである。こんなに良いホールを使わない手はない。音響施設は非常に高いレベルにあることをもっと押し出していけば、施設の売りになり、シティセールスにもつながるので、強化していただきたい。また、落語の機会を増やしていただくとありがたい。</p>
教育部長	<p>ツイメルマンのCDが売れていることは承知している。そのCDの楽曲が、アルフォーレで録音されたことは非常に話題になっている。こうした話題をPRし、需要を増やしていきたいと思っている。また、有名なスタインウェイのグランドピアノを弾けることもPRしていくなど、利用拡大に向け指定管理者と研究していきたい。</p>
委員	<p>アルフォーレには著名な音楽家が来ており、知名度が上がってきていると思う。今後も活性化していくことを期待している。</p>
	<p>【第6章 自治経営 第1節 平和と人権を尊重する心をはぐくむ】</p>
委員	<p>男女共同参画に関して、民間企業における女性の活躍というのは、極めて旧態としている。市の審議会等での女性の登用率を高めることと並行して、女性がもっと活躍するための取組が必要ではないか。</p>
総合企画部長	<p>非常に重要な視点であると認識している。今年から男女共同に係る事業は総合企画部に移管した。その理由は、社会に対し問題を提起し、良い方向に持っていくためである。また、労働政策的視点は重要であり、市役所も一事業所として、女性の登用に心がけていかなければならず、男性の育児休業の取得促進、働きやすい環境整備など模範としてやっていかなければならない。その次の段階として、労政部門を担当する産業振興部とタイアップし、民間企業に働きかけていきたい。まず市役所で、女性の活躍や働く場の環境改善に実践的に取り組み、問題点を考えて、民間の皆様使いやすい制度にしていきたい。</p>
産業振興部長	<p>産業、雇用関係では、高齢者、障がい者、女性の3つのカテゴリーに視点を合わせて事業を展開している。女性に関しては、女性活躍推進事業で、工場等において女性トイレがない場合、トイレを作るために補助しているほか、就業規則を改正するためのアドバイスや関係者を集めたセミナー等も実施しており、</p>

- 今後も継続していきたい。
- 委員 女性の労働力も重要となってくるので、引き続き取り組んでいただきたい。
- 【第6章 自治経営 第2節 持続可能な市民力と地域力をはぐくむ】
- 委員 地域でも防災、除雪に関して若い方に声をかけると意外と参加してくれる。しかし、地域イベント等への参加は積極的ではない。日頃から、若手にアプローチし、人手が足りず助け合う必要性を理解してもらうことを、まち全体で出来ないかと考えており、検討していただきたい。
- 市民生活部長 地域おこし協力隊を導入する前に、外部の方を受け入れる体験をする必要があるとの認識から、北条の岩之入地区でインターン生を募集し、女子大生3名を1ヶ月間受け入れた。それまでは、若い方はほとんど地域活動に顔を出さなかったが、インターン生の受入れをきっかけにして、地域行事や集会に出てくるようになり、いろいろな発言もあり活性化した。また、お年寄りも元気になり、非常に効果があった。若い方が地域活動に出てくるきっかけをつかめないこともあると思われ、地域で工夫していただくよう働きかけていきたい。
- 委員 柏崎リーダー塾の塾生になるためのハードルはあるのか。例えば、学生でも入れるのか。
- 総合企画部長 現在、学生はリーダー塾の対象としていない。自薦他薦は問わないが、市内に勤める方が中心となっている。
- 委員 カリキュラム内容のハードルを下げて、例えば大学のゼミに取り入れれば、大学生が柏崎について知れる機会が増えて良いと思う。
- 委員 柏崎リーダー塾は、働く方々が、自分が勤める企業の活性化も含め、公に活躍することを目的としている。現在3期を迎えているが、良い事業に育ったと思っている。卒塾後は、是非、町内活動や企業内でも輝いていただきたいと願っている。ご指摘いただいた視点も参考にしていきたい。
- 【第6章 自治経営 第3節 持続可能な行政力をはぐくむ】
- 委員 マイナンバーカード普及率が伸び悩んでおり、コンビニ交付サービス利用件数も少ない。市役所に住民票や印鑑証明書を取りに来た方に、コンビニで交付可能であることを案内しているか。
- 企画政策課長 案内する取組はしていない。コンビニ交付サービスは、目標値に比べると低くなっているが順調に伸びており、県内でも高い水準である。マイナンバーカード普及率も10%ではあるが、県内では上位となっている。
- 委員 お年寄りや郊外の方などに対し、コンビニでも交付可能であることを発信していただきたい。
- 委員 月曜の夜間と土曜の午前中は、市役所の開館時間を延長しており、勤め人には使いやすく大変助かっている。こうした対応について、市民からの声があれば、教えていただきたい。
- 市民生活部長 アンケート等は実施していないが、利用人数は着実に増えている。月曜の夜間と土曜の午前中の利用者数も毎年増え、開設時間の認知は広がっており、働いている方々にも市役所を利用していただいていると思われる。
- 委員 コンビニ交付サービスの書類は、金融機関で必要なケースが多い。金融機関で発行することが出来れば、利便性が上がるのではないかと。
- 総合企画部長 以前、郵便局の中で発行することを、費用対効果を含め検討した経緯がある。現在は、住民票等を取りに行きやすい環境づくりと合わせ、マイナンバーカードさえあれば、住民票等の不要な社会を目指していくことも必要である。そのために、マイナンバーカードにメリットを出しながら、普及を目指していく。

また、住民票を届けるサービスを行っている自治体も少なからずあり、発想の転換も今後は必要である。

市民生活部長 コンビニ交付の理由は、24時間対応できるという点にあり、窓口を延長しても、市役所に来られない方がいらっしゃることに対応している。

委員 プライマリーバランスの算定基準が変わったということで、評価が難しい。よく厳しい財政と聞かすが、市の税収のうち、固定資産税は評価額が下がり、住民税は人口減少により減少することは理解できるが、法人市民税はどの程度減少しているのか。

財務部長 プライマリーバランスは、平成28年度決算から国が示す統一的な基準により算定することとなったため、数字が目標値とかけ離れているが、基礎的財政収支は、黒字になっている。税収全体では、平成29年度決算は、28年度決算に比べ約2億円減少した。この主な理由は、特別な事情により大きな法人の法人市民税が約1億8千万円減少したことによる。法人市民税に関しては、景気が反映して増加している自治体もあるが、柏崎市においては伸びに転じていく状況にはない。また、主な収入として地方交付税があるが、合併により交付額が一気に下がらないように措置されていた期間が終わり、その後5年間で徐々に下げられ、平成29年度は28年度に比べ1億2～3千万円減少している。さらに、電源交付金は、原発稼働率が交付額に影響する。原発が稼働していないことから、これまでみなし稼働率として算定されていたものが、年々落ちてきており、一年間で5千万円程度減少している。歳出では、大規模修繕をしなければならない時期を迎える施設が多くあり、社会保障関連経費もまだ伸びる状況である。今後は、新庁舎建設のほか、国営ダム建設の負担金を平成32年度に約30億円支出予定であり、その先には、ゴミ処理場の建替えに新庁舎建設と同程度の費用がかかる見込みである。こうしたことから、まだまだ厳しい状況が続く見込みである。最後に、家庭に例えると貯金に当たる財政調整基金は、ガス事業を売却したこと、今年度末には一時的に60億円程度になるが、今後続く大型事業に充てていく考えである。例年、除雪費は5～6億円程度だが、昨年度は、豪雪により約11億円支出した。この影響もあり財政調整基金を11億円取り崩したが、こうしたペースで取り崩していくと数年後には財政調整基金が空になることを危惧している。こうしたことを念頭に置きながら、財政運営に当たっていききたい。

委員 財政は根幹になる部分であるので、委員の皆様にもご承知おきいただきたい。報告書には、多くの主要な事務事業が掲載されているが、これに予算がついていると捉えて良いか。また、現在、事業峻別が進められていると聞かすが、その進捗状況等を聞かせていただきたい。

財務部長 一般的な事務費や市の活性化のための事業など、事業数は全体で1000程度あり、予算組みをするための区分としている。そのうち総合計画に位置付けられている事務事業は、印を付け、認識した上で予算付けしている。

総合企画部長 1000程度ある事業のうち、法的に決められた事業を除く899事業を市長が一つずつ見て、事業の大小は別として、今まで減らすことができなかった事業についても切り込ませていただいた。この内容については、行政改革推進委員会に諮り、11月上旬に議会への報告、記者会見を予定している。ただし、総合計画との整合性は、慎重にチェックさせていただいている。市長は、今後も事業峻別を継続する予定だが、削るだけではなく、削った経費は、未来への投資につなげていくことをご理解願いたい。

- 委員 交流定住推進に関して、U・Iターン情報ネットというサイトがある。求人情報が新卒用と経験者用に分かれて多くあり、興味深かった。良いサイトなので、他のサイトにもリンクを貼ってもらえると良いと思うが、現状について教えてもらいたい。
- 総合企画部長 市が民間企業に委託しているサイトである。首都圏で様々な情報を発信していくとともに、ネットを活用した周知も工夫していきたい。リンクの可否については改めて回答する。
- 委員 繰り返しとなるが、良いサイトなので、多くの人の目に触れるようになってほしい。
- 委員 大正大学地域創生学部の学生が1ヵ月間、柏崎市内で研修を行った成果発表会が10月22日にまちからで開催される。全国から集まった学生が、柏崎をどう思ったのか生の声を聞ける良い機会だと思うので、是非足を運んでいただきたい。
- 企画政策課長 大正大学に地域創生学部が設置されて3年目であり、初年度から柏崎市内で研修している。昨年度までは、柏崎市内のみで研修していたが、今年度は柏崎市、十日町市、南魚沼市で研修していると承知している。発表会には過去2回も参加しており、今年度も参加予定である。また、市職員にも周知し、広く参加を呼びかけていく。

(4) その他

総合戦略推進委員会は、10月30日（火）午後3時から午後5時に開催する。場所は、改めて連絡する。

(5) 副会長挨拶 根本副会長から挨拶

(6) 閉会 企画政策課長から閉会挨拶